

聖書は物語る

一年12回で聖書を読む本

正木牧人氏・評（神戸ルーテル神学校校長）

聖書を一続きの物語として捕らえ、
一貫する世界観を提示！

……本書の読みやすさは聖書を一続きの物語として捕らえ、一貫する世界観を提示していることにある。大頭氏はかつて英国留学に際して生涯の出会いを得た『神の物語』という書物を、著者のロダール氏と密接に連絡を取りながら十年がかりで和訳し2011年に出版している（現在はヨベル新書）。これもお勧めしたい良書である。ロダール氏は聖書の記事の歴史的信憑性に確信を持ちつつも、神という主人公と人類史という筋を持つ神学的物語として聖書を読み解く。……学びの会のテキストとしての本書は資料の面でもアプローチの工夫の面でも絶大な価値をもっている。聖書の「神の物語」が整理されている。旧約聖書から天地創造、アダムとその妻、族長たち、出エジプトと十戒、王と神殿、預言者、メシア、詩と知恵文学と進み、第9回から新約聖書のキリストの誕生、十字架と復活、教会の誕生、終わりのことがらへと進む。……本書の用い方を考えてみた。牧師が一般の人々に案内し教える。牧師が自分の学びのために用いる。神学校などの教材としては本書はちょうど1学期間で学べるよい長さだ。夫婦で学ぶ。高校生に教養として教える。大学生のサークルで学べる。教会学校の先生が聖書全体の流れを本書で把握するのもよい。（本のひろば書評より抜粋）

主な目次

はじめに

第1回 天地創造

第2回 アダムとその妻

第3回 族長たちの物語

第4回 出エジプトと十戒

第5回 王と神殿

第6回 預言者の叫び

第7回 来るべきメシア

第8回 詩歌と知恵文学

第9回 キリストの誕生

第10回 十字架と復活

第11回 教会の誕生

第12回 終わりのことがら

あとがき

1960年神戸市生まれ。北海道大学経済学部卒業後、三菱重工に勤務。英国マンチェスターのナザレン・セオロジカル・カレッジ(BA, MA)と関西聖書神学校で学ぶ。日本イエス・キリスト教団香登教会伝道師・副牧師を経て、現在、京都府の京都信愛教会/天授ヶ岡教会/明野キリスト教会牧師、関西聖書神学校講師。

主な著書：『聖書は物語る 一年12回で聖書を読む本』（2013、2023⁸⁾、『聖書はさらに物語る 一年12回で聖書を読む本』（2015、2019⁹⁾）、『焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇：① アブラハムと神さまと星空と 創世記・上（2019、2024³⁾／② 天からのはしご 創世記・下（2020、2021²⁾／③ 栄光への脱出 出エジプト記（2021、2024²⁾／④ 聖なる神の聖なる民 レビ記（2021、2024²⁾／⑤ 何度でも何度でも何度でも 愛 民数記（2021、2024²⁾／⑥ えらべ、いのちを 申命記・上（2022）／⑦ 神さまの宝もの 申命記・中（2023）／⑧ いのち果てるとも 申命記・下（2023）、ほか 共著：『焚き火を囲んで聴く神の物語・対話篇—大頭真一と焚き火を囲む仲間たち』（2017）、『聖化の再発見—ジパング篇』（2024、以上ヨベル） 主な訳書：マイケル・ロダール『神の物語』（日本聖化協力会出版委員会、2011、2012²⁾）、マイケル・ロダール『神の物語 上・下』（ヨベル新書、2017）、監訳『聖化の再発見上・下』（いのちのことば社、2022）、ほか



おおず しんいち
大頭 真一 [著]

京都府の京都信愛教会 / 天授ヶ岡教会 /
明野キリスト教会牧師 / 関西聖書神学校講師

お待たせしました
好評9刷出来！



聖書は何を語っているのか？

一度は聖書を読んでおきたいと思うけれども、挫折してしまうあなたに。明野キリスト教会（京都）で好評開催中の「一年12回で聖書を読む会」のテキストが本になりました。聖書の背骨のような神と人とのガチンコの関係に焦点を当てて書かれた、かつこうの聖書案内役です。

YOBEL Inc. 定価（本体1,100円＋税）

A5判・112頁・定価1,210円
1,100円＋税 ISBN978-4-946565-84-7